科目名			担当教員	
社会福祉援助技術総論			三浦 剛（上）／相場 恵（下）	
科目コード	科目単位	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CE3070	4	2	RorSR（講義）	2年以上
生成 AI 利用レベル		レポート ： B	試験（スクーリング含む） ： C	

科目の概要

■科目の内容

「ソーシャルワーク（相談援助）」とは何でしょうか。今日、日々変化し続けている社会生活の中で、人々が抱えているニーズも多種多様化しています。ニーズに応えるためのソーシャルワークとはいかにあるべきものでしょうか。それに携わる専門職とはどうあるべきものでしょうか。ここでは、それらを明らかにするために、①社会福祉士、精神保健福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。②相談援助の概念と範囲について理解する。③相談援助の理念について理解する。④相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。⑤相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。⑥総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。以上を主な学習のねらいといたします。

■到達目標

１）社会福祉士、精神保健福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について説明することができる。
２）相談援助の概念と範囲について説明することができる。
３）相談援助の理念について説明することができる。
４）相談援助における権利擁護の意義と範囲について説明することができる。
５）相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について説明することができる。
６）総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 60%

■教科書・参考図書

【教科書】

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職（第３版）』中央法規出版、2015 年（第３版でなくても可）

（最近の教科書変更時期） 2015 年４月

（スクーリング時の教科書）パワーポイントの資料を中心に上記の教科書を使用しますので、必ず持参してください。

【参考図書】

１）杉本敏夫・斉藤千鶴編『改訂　コミュニティワーク入門』中央法規出版、2003 年
２）高森敬久ほか著『地域福祉援助技術論』相川書房、2003 年
３）M.E. リッチモンド著『ソーシャル・ケース・ワークとは何か』中央法規出版、1991 年
４）濱野一郎ほか編『コミュニティワークの理論と実践を学ぶ』みらい、2004 年
５）北川清一・久保美紀編著『社会福祉の支援活動―ソーシャルワーク入門―』（シリーズ・ベーシック社会福祉②）、ミネルヴァ書房、2008 年
６）日本社会福祉士会編『改定社会福祉士の倫理―倫理綱領実践ガイドブック―』中央法規出版、2009 年
７）仲村優一・一番ケ瀬康子・右田紀久恵監修、岡本民夫・田端輝美・濱野一郎・古川隆順・宮田和明編『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規出版、2007 年
８）北島英治著『ソーシャルワーク論』（MINERVA 福祉専門職セミナー19）、ミネルヴァ書房、2008 年
９）久保紘章・副田あけみ編著『ソーシャルワークの実践モデル　心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店、2005 年
10）太田義弘・秋山薊二編著、中村佐織・齊藤順子・谷口泰史・佐野真紀共著『ジェネラル・ソーシャルワーク』光生館、2002 年
11）社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 7　相談援助の理論と方法Ⅰ（第３版）』中央法規出版、2015 年
12）社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 8　相談援助の理論と方法Ⅱ（第３版』中央法規出版、2015 年
13）空閑浩人著『ソーシャルワーカー論―「かかわり続ける専門職」のアイデンティティ』ミネルヴァ書房、2012 年
14）空閑浩人著『ソーシャルワークにおける「生活場モデル」の構築（MINERVA 社会福祉叢書）』ミネルヴァ書房、2014 年
15）山辺朗子著『ジェネラリスト・ソーシャルワークにもとづく社会福祉のスーパービジョン：その理論と実践（新・MINERVA 福祉ライブラリー）』ミネルヴァ書房、2015 年
16）空閑浩人著『ソーシャルワーク（新・基礎からの社会福祉）』 ミネルヴァ書房、2015 年
17）衣笠一茂著『ソーシャルワークにおける「価値」と「原理」：「実践の科学化」とその論理構造（MINERVA 社会福祉叢書）』ミネルヴァ書房、2015 年

スクーリング

▶オンデマンドのみ

■スクーリングで学んでほしいこと

「利用者主体」「自立支援」「利用者利益の最優先」を原則とした、専門職としての相談援助とは何か、ソーシャルワークとは何かを本講義では考えていきたいと思います。

現代社会の複雑化する地域生活の中で、支援を必要としている人々のニーズも、年々多様化・複雑化してきています。人々が抱えている生活課題を解決するための相談援助とはどのようにあるべきなのでしょうか。一緒に考えてみたいと思います。

ソーシャルワークの歴史・意義・価値等を踏まえた上で、相談援助の専門職であるソーシャル・ワーカー（社会福祉士）の活動について、具体的な実践例を紹介しながら、「利用者主体」「自立支援」「利用者利益の最優先」の理念に基づいた、ソーシャルワーク実践の重要性を考えていきたいと思います。ソーシャルワークとは、社会福祉士とは、専門的相談援助とはなにか、を明らかにしていきたいと思います。

教科書は、よく読んで出席してください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークの形成過程①	ソーシャルワークの源流～1930 年代
2	ソーシャルワークの形成過程②	1940 年代～現代
3	社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義	法改正の背景・社会福祉士の定義と専門性・精神保健福祉士の定義と専門性
4	相談援助の定義と構成要素	ソーシャルワークの概念（IFSW の定義等）・ソーシャルワークの構成要素（クライエントシステム、社会資源等）
5	ソーシャルワークの理念①	価値や権利擁護の概念について
6	ソーシャルワークの理念②	自己決定・社会的包摂等
7	倫理的ジレンマ	専門職倫理の概念等
8	包括的相談援助の全体像	地域を基盤とする活動の重要性
9	包括的相談援助を支える理論	ジェネラリスト・ソーシャルワーク
10	ソーシャルワークにおける専門職の概念と範囲	成立要件・実践範囲
11	ソーシャルワーカーの専門的機能	ソーシャルワーカー（社会福祉士）の実践例の検討・分析・総括
12	質疑応答	
13	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めていきます。また、ソーシャルワークの実践例を紹介しその解説を行います。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験 100%（持込可：ただし、電子機器類・携帯電話は不可）

試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえた上で、自分自身の考えを述べたり、具体的なイメージをもてているかということも評価内容に含めます。用語の解説だけにならないようにしてください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカー（社会福祉士）とはどのような人のことを指しているのか。

また、どのような実践をしている人たちなのか。考えてきてください。

レポート学習

■在宅学習 30 のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	相談援助の形成過程 Ⅰ①ソーシャルワークの源流 (第３章第１節)	COS やセツルメントといったソーシャルワーク の源流について理解する。 キーワード：慈善救済、四箇院、隣人愛、慈善 組織協会（COS)、セツルメント	ソーシャルワークの源流についてまとめてみましょう。キーワードを確実に理解するようにしましょう。
2	相談援助の形成過程 Ⅰ② ソーシャルワークの基礎確立期（～1930 年代） (第３章第２節)	ソーシャルワークの基礎確立期（～1930 年代）について理解する。 キーワード：リッチモンド、アダムス、慈善組織協会、友愛訪問、セツルメント、ミルフォード会議、ジェネリック・ソーシャル・ケースワーク	リッチモンド、アダムスの業績についてまとめてみましょう。アメリカにおける慈善組織協会とセツルメント運動の活動や 1920 年代における日本の動向について理解しましょう。
3	相談援助の形成過程 Ⅱ① ソーシャルワークの発展期（1940 年代～1950 年代半ば） (第４章第１節)	ソーシャルワークの発展期（1940 年代～1950 年代半ば）について理解する。 キーワード：診断主義学派、機能主義学派、フロイト（S.Freud)、ランク（O.Rank)、グループワーク、コミュニティ・オーガニゼーション	診断主義学派と機能主義学派についてまとめてみましょう。関係する人物、また、両学派の相違点、その後の展開と与えた影響についても理解することが大切です。
4	相談援助の形成過程 Ⅱ② ソーシャルワークの展開期（1950 年代半ば～1960 年代以降） (第４章第２節)	ソーシャルワークの展開期（1950 年代半ば～1960 年代以降）について理解する。 キーワード：貧困の再発見、公民権運動、問題解決アプローチ、パールマン（H.Perlman)、四つのP、ワーカビリティ、ケースワークは死んだ	「貧困の再発見」についてその歴史的経緯を理解しましょう。また、パールマンの「問題解決アプローチ」について理解しましょう。この時期の日本の動向についてもまとめておきましょう。
5	相談援助の形成過程 Ⅱ③ ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク (第４章第３節)	ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワークについて理解する。 キーワード：ソーシャルワークの統合化、生態学（エコロジカル）視点、生活モデル、シーボーム報告、システム理論、ジェネラリスト・ソーシャルワーク	ソーシャルワークの統合化とは何か、また、ジェネラリスト・ソーシャルワークとは何なのかを整理してみましょう。

6	社会福祉士の役割と意義① 社会福祉士の役割と意義 (第１章第１節)	日本におけるソーシャルワークの展開をふまえ「社会福祉士及び介護福祉士法」の成立及び見直しの背景から、法における社会福祉士の位置づけを理解し、社会福祉士、精神保健福祉士の専門性を理解する。 キーワード：社会福祉士及び介護福祉士法、社会福祉士の専門性、定義、義務、法制度成立の背景、制度見直しの背景、名称独占、精神保健福祉士法、精神保健福祉士の専門性	「社会福祉士及び介護福祉士法」成立までの背景を理解するとともに、社会福祉士および精神保健福祉士の法的位置づけ、そして定義を確認しましょう。また、なぜ、国家資格としての専門資格が必要になったのかを理解しましょう。
7	社会福祉士の役割と意義② 現代社会と地域生活 (第１章第２節)	現代社会と地域生活において地域や家庭内で起きていることを把握し、ソーシャルワーク実践とその基盤となる知識について理解する。 キーワード：グローバル化社会、核家族化、少子高齢化社会、合計特殊出生率、人口減少、生活困窮者、虐待	現代社会において、どのようなニーズが存在しているのか理解しましょう。キーワードひとつひとつを確認しながらその結果としての実情を考えてみましょう。
8	相談援助の定義と構成要素① ソーシャルワークの概念 (第２章第１節)	国際ソーシャルワーカー連盟の定義やその他の主だった定義を理解する。 キーワード：国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）の定義、全米ソーシャルワーカー協会の定義	国際ソーシャルワーカー連盟等の定義などを確認し、ソーシャルワークの概念を理解しましょう。ひとつひとつの言葉の意味を確認することが大切です。
9	相談援助の定義と構成要素② ソーシャルワークの構成要素 (第２章第２節)	ソーシャルワークの構成要素であるクライエントシステム、ニーズ、ソーシャルワーカー、社会資源について理解する。 キーワード：クライエントシステム、クライエント、ユーザー、コンシューマー、ソーシャルワーカー、社会福祉士、精神保健福祉士、名称独占、ソーシャルワークの価値、ソーシャルワークの知識、ソーシャルワークの技術、社会資源	ソーシャルワークを価値・知識・技術に分けて整理してみましょう。むすびつける社会資源については、どのような種類があり、そして分類されているのかをまとめてみましょう。
10	相談援助の理念Ⅰ① ソーシャルワーカーと価値 (第５章第１節)	ソーシャルワーク専門職として身につける価値について理解する。 キーワード：個人としての価値観、受容、非審判的態度	バイステックの７原則を中心にまとめてみましょう。

11	相談援助の理念Ⅰ② ソーシャルワーク実践と価値 (第５章第２節)	ソーシャルワーク実践と価値について理解する。 キーワード：人権尊重、社会正義、尊厳の保持、利用者本位、平等	キーワードひとつひとつの意味を理解することが大切です。
12	相談援助の理念Ⅰ③ ソーシャルワーク実践と権利擁護 (第５章第３節)	ソーシャルワーク実践と権利擁護について理解する。 キーワード：基本的人権、生存権、措置制度、契約制度、権利擁護、アドボカシー	「措置」・「契約」制度のメリット・デメリットは何かを考えてみましょう。その視点から、権利擁護を考えてみてください。
13	相談援助の理念Ⅱ① クライエントの尊厳と自己決定 (第６章第１節)	クライエントの尊厳と自己決定、また、エンパワーメント、ストレングス視点について理解する。 キーワード：自己決定、自己責任、利用者本位、IL 運動（自立生活運動）、ノーマライゼーション、自立支援、エンパワーメント、ストレングス視点	クライエントの尊厳や自己決定の重要性について、キーワードひとつひとつを理解し、そして関連付けをしながらまとめてみましょう。キーワードについては、説明できることも目標にしてください。
14	相談援助の理念Ⅱ② ノーマライゼーションと社会的包摂 (第６章第２節)	ノーマライゼーション、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）について理解する。 キーワード：ノーマライゼーション、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）、社会的排除（ソーシャル・エクスクルージョン）、地域生活支援	ノーマライゼーション理念の 展開について理解しましょう。ソーシャル・インクルージョ ンについても、ノーマライゼーション理念との関係、内容等、 熟知しておくことが大切です。
15	専門職倫理と倫理的ジレンマ① 専門職倫理の概念 (第７章第１節)	専門職倫理の概念について理解する。 キーワード：道徳観、専門職倫理	なぜ、専門職倫理が必要なのか。「専門的対人援助」という視点から考えてみてください。
16	専門職倫理と倫理的ジレンマ② 倫理綱領の意義と内容 (第７章第２節)	倫理綱領の意義と内容について理解する。 キーワード：倫理綱領、全米ソーシャルワーカー協会倫理綱領、日本社会福祉士会倫理綱領、日本社会福祉士会行動規範	倫理綱領の意義をまとめるとともに、「全米ソーシャルワーカー協会」の倫理綱領の歴史を確認 するとともに、日本社会福祉士会の倫理綱領および行動規範の内容について熟知してください。
17	専門職倫理と倫理的ジレンマ③ ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ (第７章第３節)	ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマの内容について理解する。 キーワード：倫理的ジレンマ、守秘義務	倫理的ジレンマとはどういうことか、倫理的判断過程（教科書の事例）を通しながら理解してください。倫理原則選別リスト、守秘義務違反が正当化される場合の状況についても理 解しましょう。

18	総合的かつ包括的な相談援助の全体像①「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景 (第８章第１節)	総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景について理解する。 キーワード：コミュニティソーシャルワーク、社会福祉基礎構造改革	地域を基盤としたソーシャル ワーク実践とはどのようなことなのか。社会福祉基礎構造改 革等を参考にしながらまとめてみましょう。
19	総合的かつ包括的な相談援助の全体像②地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座ー四つのパラダイムシフト (第８章第２節)	地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座について理解する。 キーワード：予防的アプローチ、積極的アプローチ、連携、協働	本人の「生活の場」での援助 の重要性を考えてみましょう。また、ネットワークの重要性、それに伴う連携と協働についてまとめましょう。
20	総合的かつ包括的な相談援助の全体像③地域を基盤としたソーシャルワークの機能 (第８章第３節)	地域を基盤としたソーシャルワークの機能について理解する。 キーワード：ソーシャルワークの機能	ソーシャルワークの機能について理解しましょう。
21	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論① ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点 (第９章第１節)	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点について理解する。 キーワード：ジェネラリスト・ソーシャルワーク	ケースワーク、グループワー ク、コミュニティワークの融合 について理解しましょう。その中で「ジェネラリスト・ソーシャルワーク」とはなにかを考えてみましょう。
22	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論② ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質 (第９章第２節)	ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質について理解する。 キーワード：エコロジカル・ソーシャルワーク、システム思考、エコシステム、介入、相互作用、コミュニティ、エンパワーメント、ストレングス視点、マルチシステム、マルチパーソンクライエントシステム、自然発生的援助システム	キーワードを確認しながら、「ジェネラリスト・ソーシャル ワーク」の特質について理解しましょう。
23	相談援助にかかる専門職の概念と範囲①相談援助専門職の概念 (第 10 章第１節)	相談援助専門職の概念や職能団体の役割について理解する。 キーワード：業務独占、名称独占、日本ソーシャルワーカー協会、日本社会福祉士会、日本精神保健福祉士協会、チームアプローチ	専門職の成立条件とは何か、また、ソーシャルワーカーには なぜ専門性が必要なのかを理解してください。併せて、職能 団体の活動も確認しておきましょう。

24	相談援助にかかる専門職の概念と範囲② 相談援助専門職の範囲 (第 10 章第 2 節)	相談援助専門職の範囲や活躍するさまざまな場について理解する。 キーワード：社会福祉行政における専門職、民間施設・組織における専門職、独立型社会福祉士、医療ソーシャルワーカー（MSW)、精神科ソーシャルワーカー（PSW)、スクールソーシャルワーカー	福祉分野における相談援助専門職と活躍する機関や施設を理解してください。福祉行政、民間施設、医療、司法等、多領域の確認が必要です。
25	相談援助にかかる専門職の概念と範囲③ 諸外国の動向 (第 10 章第 3 節)	諸外国の動向について理解する。 キーワード：イギリスの動向、アメリカの動向、スウェーデンの動向	諸外国の動向について理解してください。最新情報の収集が大切です。
26	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能① 個と地域の一体的支援機能 (第 11 章第 1 節)	「総合的かつ包括的な相談援助」における専門的機能（個と地域の一体的支援機能）の展開について事例を通して理解する。 キーワード：コミュニティソーシャルワーカー、アウトリーチ	事例を通して社会福祉士の専門的機能を理解してください。
27	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能②③ 予防機能新しいニーズへの対応機能 (第 11 章第 2・3 節)	「総合的かつ包括的な相談援助」における専門的機能（予防機能・新しいニーズへの対応機能）の展開について事例を通して理解する。 キーワード：リスクマネジメント、予防、地域包括支援センター、新しいニーズ、独立型社会福祉士	事例を通して社会福祉士の専門的機能を理解してください。
28	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能④⑤ 総合的支援機能多問題家族への支援 (第 11 章第 4・5 節)	「総合的かつ包括的な相談援助」における専門的機能（総合的支援機能・多問題家族への支援）の展開について事例を通して理解する。 キーワード：クライエントの重層的システム、時間軸、スクールソーシャルワーカー、家族システム、エコシステム	事例を通して社会福祉士の専門的機能を理解してください。

29	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能⑥権利擁護機能 (第 11 章第 6 節)	「総合的かつ包括的な相談援助」における専門的機能（権利擁護機能）の展開について事例を通して理解する。 キーワード：権利擁護、措置から契約へ、利用者主体、自己決定、ケースアドボカシー、クラスアドボカシー、日常生活自立支援事業、成年後見制度	事例を通して社会福祉士の専門的機能を理解してください。
30	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能⑦ 社会資源開発機能 (第 11 章第 7 節)	「総合的かつ包括的な相談援助」における専門的機能（社会資源開発機能）の展開について事例を通して理解する。 キーワード：社会資源、社会福祉協議会	事例を通して社会福祉士の専門的機能を理解してください。

■レポート課題

1 単位め	ソーシャルワークの形成過程についてまとめ、ソーシャルワークの現代的意義とその概念を説明してください。
2 単位め	ソーシャルワーカー（社会福祉士）の専門性について、ミクロレベルからマクロレベルまで、価値・倫理・知識・技術にふれながら、具体的に論じてください。
3 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
4 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

ソーシャルワークの形成過程を基礎確立期・発展期・展開期と分けてみるとよいでしょう。また、イギリス、アメリカ、日本と国別に分けて整理してみることもよいでしょう。いかなる過程を経て現在のソーシャルワークが存在しているのかを確認してください。使用した参考文献は必ず明示してください。

【2 単位めアドバイス】

1987（昭和 62）年「社会福祉士及び介護福祉士法」が施行されました。何故、社会福祉士という相談援助専門職が必要とされたのでしょうか。その必要とされるに至った時代背景を確認することが大切です。また、法令上の社会福祉士の定義を確認することも忘れないでください。現在、社会福祉士は福祉分野だけではなく多方面で活躍しています。社会福祉士が何を求められているのか。そして、社会福祉士が果たすべき専門性とは何かを整理してみましょう。使用した参考文献は必ず明示してください。

【3・4 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

科目修了試験

■評価基準

下記の社会福祉援助技術総論・ルーブリック評価を参照。

■1 単位め・ルーブリック評価

評価の視点	説　明	優（3）	良（2）	可（1）	不可
題意（課題）の把握	ソーシャルワークの形成過程が、相互扶助、事前救済、救貧対策、人道主義的諸活動などの過程をふまえて説明されている。	ソーシャルワークの形成過程が文献等で適切に把握されている上、セツルメント活動やC.O.S.がアメリカでソーシャルワークとして体系づけられていく過程も把握できている。	ソーシャルワークの形成過程が文献等で適切に把握され、自分のことばで説明できている。	ソーシャルワークの形成過程についてまとめられているが、テキストなど文献からの引用がほとんどである。	題意の把握ができていない。ソーシャルワークの形成過程が十分理解されていない。
考察力	形成過程を説明するだけでなく、今日のソーシャルワークとの関係性など にも言及している。	形成過程を説明するだけでなく、今日のソー シャルワークとの関係性などにも言及している。	形成過程が正しく説明できており、そこに何らかの考察が加えられている。	形成過程についてテキストのまとめに終始して いる。	基礎的な知識 に基づかない 意見が述べられている。
表現、文字の正確さ	表現、文字が正確であるだけでなく、文章構成も工夫されている。	構成も考えられ、意図が伝わりやすい表現工夫されている。	文章を構成して書いている。	表現、文字の正確さに問題はない。	誤字が多く、 意味の伝わらない文章がみられる。
引用、参考文献の表示	引用、参考箇所が本文中に表示され、正しく表記されたリストに対応させられている。	引用、参考箇所が本文中に表示され、正しく 表記されたリストに対応させられている。	「学習の手引き」に従って表示されている。	表示されているが、不適切な部分がある。	表示されていない。

■2 単位め・ルーブリック評価

評価の視点	説　明	優（3）	良（2）	可（1）	不可
題意（課題）の把握	社会福祉士（ソーシャルワーカー）に期待される機能ともつべき専門性について、具体的イメージをもって述べている。	ソーシャルワーカーの機能や専門性という用語の意味が、テキストなど文献で把握された上に、資格制度の発展過程やその課題等にも触れている。	ソーシャルワーカーの機能や専門性という用語の意味が、テキストなど文献で把握され、構成をして、適切にまとめられている。	ソーシャルワーカーの機能や専門性という用語の意味が、テキストなど文献からの引用がほとんどである。	題意の把握ができていない。
現実との関連づけ	事例などを用いて、現実との関連づけを高めている。	課題に対する基礎的な知識を踏まえ、適切に事例をあてはめている。	事例以外の方法で、現実との関連づけと高める工夫がされている。	事例は用いられているが、課題の説明には相応しくない。	現実との関連づけは図られていない。
考察力	課題を説明するだけでなく、自分の意見を述べている。	課題に対する基礎的な知識を踏まえ、論理的に意見を述べている。	課題に対する基礎的な知識を踏まえているが、引用が多い。	文献からの引用がほとんどで、考察が少ない。	意見は述べられているが、課題との関係が把握されていない。

表現、文字の正確さ	表現、文字が正確であるだけでなく、文章構成も工夫されている。	構成も考えられ、意図が伝わりやすい表現工夫されている。	文章を構成して書いている。	表現、文字の正確さに問題はない。	誤字が多く、意味の伝わらない文章がみられる。
引用、参考文献の表示	引用、参考箇 所が本文中に表示され、正しく表記されたリストに対応させられている。	引用、参考箇所が本文中に表示され、正しく表記されたリストに対応させられている。	「学習の手引き」に従って表示されている。	表示されているが、不適切な部分がある。	表示されていない。